

肺癌診断 update

肺癌は、実数は増加してないとはいえ、死亡数で男性の1位、女性の4位と「目立つ」癌の1つです。本特集はまず疫学的な観点から肺癌の実態をオーバービューして、次いで肺癌の診断を総論的、各論的に学習することをねらいとしました。総論的には、診断においては「疑う」ことの主役は依然、画像診断であり、加えて細胞診が重要です。「確定」は気管支内視鏡生検における病理診断によります。これらの現状につき、各論的に解説していただきました。検体検査はこれまで脇役でしたが、ALK融合遺伝子のような切り札的遺伝子マーカー、ProGRPのような組織特異性の高い腫瘍マーカーの登場で、病型診断に寄与できるようになってきました。肺癌を臨床検査全般で考えていくきっかけとなれたら幸いです。

(山田 俊幸)